



子どもからお年寄りまで、大人気の「搭乗体験」

昨年10月に「気球の飛ばまち加西条例」を制定し、市として気球によるまちづくりを推進しています。

この度、加西市制50周年を記念して、加西市とかさい熱気球サポータークラブが4月8日、鵜野飛行場跡で「ハッピーバルーンフェスティバル」を開催し、約1,500人が訪れました。

午前中は、ロープで係留した気球の「搭乗体験」と10基の気球が浮かび上がる「さくらふらいと」。夕暮れ時には、ガスバーナーの炎が気球12基を明るく灯し出し、幻想的な世界に包まれました。また、市吹奏楽団と北条高校吹奏楽部などによる音楽ステージも会場を盛り上げました。

おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に搭乗体験をした馬渡谷町の太田あむりちゃん(5歳)とこあなちゃん(3歳)は「保育園に行くときに気球を見たことがあり、乗ってみたいかった。夢がかなってうれしかった」と、笑顔で話しました。



全国から集まった気球(10基)が飛び立った「さくらふらいと」



市吹奏楽団による音楽ステージ



パンダの形をした気球も登場

中学生親善訪問団がプルマン市を訪問

問合せ／ねひめカレッジ（加西市国際交流協会）
☎080-4705-7122 nehimе@kasai-kokusai.info

中学生親善訪問団の8人が3月25日から4月3日の間、姉妹都市の米国ワシントン州プルマン市を訪問しました。子どもたちは生の英語に肌で触れ、外国家庭での文化や生活を体験することで、国際感覚を育みました。

プルマン市とは、平成元年に姉妹都市提携を締結して以来、加西市から中高生を交えた訪問団を16回派遣。プルマン市からも12回の訪問があります。



リンカーン中学校で加西市の文化や歴史などを説明をする中学生親善訪問団



ホストファミリー宅で食文化の違いを体験



プルマン市役所でジョンソン市長（後列左端）らと記念撮影

■主な訪問内容

リンカーン（Lincoln）中学校訪問／同校で、日本の学校生活や自然と歴史があふれる加西市の魅力などをプレゼンテーション。また、同校生徒と一緒に授業を受け、中学生生活を体験しました。

ホストファミリー宅に滞在／日本と違った生活や食文化を体験。ワシントン州立大学や教会なども訪れました。

プルマン市役所を公式訪問／グレン・A・ジョンソン市長から、交通機関整備の取り組みなどの説明を受けました。

■中学生親善訪問団の感想

・日本とアメリカでは想像以上に授業スタイルが違い、文化の違いを肌で感じることができて勉強になった。

・リンカーン中学校の生徒は、みんなが自分の意見をしっかり持っていたので、積極的な姿勢を見習いたい。

・ホストファミリーが優しく接してくれたので、なんとか英語で会話をすることができた。もっと英語が話せるようになりたい。

中学生親善訪問団による報告会（ご自由に参加ください）

日時／5月27日（土）14:00～15:00

場所／健康福祉会館2階研修室



キラリ☆加西

第2回目 あびき湿原保存会・会長
山下公明さん（67歳）



50周年おめでとうございます。50年前は、北条高校生で写真部に所属し、一眼レフのカメラを初めて買ってもらう、体育祭や文化祭などの写真をたくさん撮っていたのを思い出します。

■加西市の変化／昔は生活排水が整備されていなかったもので、いろんな臭いがしていた。約30年前に下水道工事が始まり、水がきれいになった。おかげで、溝や農業用水路にメダカやドジョウが戻ってきました。

■未来を託す子どもたちへ／子どもからお年寄りまで、自分のできることは自分でして汗を流そう。一人でできなければ、周りの協力を得よう。助け合って輪を広げてやっていくことが、加西市には必要だと思う。また、あびき湿原に来ていろんな動植物がいるのを知

市制50周年記念として、加西市で活躍する方々にインタビューをし、50周年のメッセージや活動状況などを紹介します。

ってもらいたい。そして、加西市に大変珍しい動植物がいるのを誇りに思っています。

■あびき湿原保存会にける思い／生息している動植物が生存できる環境づくりと、見に来てよかったと楽しんでもらえるように知識の習得に励んでいます。まだ手つかずの湿原もあるので、今後はそれを再生させたいです。

■あびき湿原保存会とは／平成27年1月に結成し、現在50名の会員で、湿原の保全作業を行っています。また、レンジャー養成講座を受講し、スキルアップを目指しています。



木道造りに取り組むメンバー